

5/14 コリント人への手紙第一 1章 10-25節 「神の知恵であるキリスト」

小池 宏明 牧師

大都会コリントにある家の教会は、信徒同士の仲間割れという問題があった。パウロはコリントの信徒たちに懇願している。10節「さて、兄弟たち、私たちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたにお願いします。どうか皆が語ることを一つにして、仲間割れせず、同じ心、同じ考えで一致してください。」

*賜物が活かされ調和のとれた教会を目指して

パウロが願っている一致は、個性や人格の違いについて問題にしているのではない。いろいろな性格や考え方の人がいて良いし、それは当然のこと。ここで「皆が語ることを一つにして」とあるが、「語ること」は「十字架のことば」(17-18節)である。十字架のことばとは、イエス様が十字架で処刑された事実と十字架による贖いのことである。また「同じ心」や「同じ考え」とあるが、これは「キリストの心」を指しているだろう。2章16節には「・・・私たちは、キリストの心を持っています。」と明記されている。パウロは、信徒たちに一致協力して、仲違いしないで、キリストの教会を立て上げようとお願ひしている。教会はキリストの体であるから、体の各器官が互いに調和を保ちながら生命を維持しているように、私たちも互いにキリストの御心に聞きながら、有機的な生き活きた教会を、主の御前にあって立て上げたい。「誰々〜に付く」と言って、分裂状態になることは他のグループと比較して、自分たちのグループこそ正しいとすること、すなわちキリストを誇りにしているのではなく自分たちを誇る動機が隠れているのだ。

*十字架のことばこそ教会一致の要

教会の中で、分派や分裂、仲間割れが起きているなら、救い主イエス・キリストがないがしろにされていることが本質的原因である。逆に教会が一致して歩むためには、教会員が互いに、イエス・キリストの十字架による救いを認めること。キリストが私の身代わりに十字架上で犠牲になられたことを、私たちが互いに認めるなら和解が成され、キリストの心で、キリストの十字架の言葉で一致できる。「十字架のことばは、滅びる者たちには愚かであっても、救われる私たちには神の力です。」(18節) 十字架上で死んだ男が教会の頭になっていることは、この世の知恵者にとっては愚かなことかもしれない。しかし、私たち教会にとっては神の知恵、神の力であり、教会が一致する要なのだ。